

探究心を持つ

今期はSTEM演習という講義がありました。STEM演習では、3~4名の少人数グループ毎に分かれ、テーマを選定し、調査・結果整理・考察・発表を行います。各グループには1名のアドバイザー教員が助言および指導を行います。テーマ選定から発表までを学生が主体的に進めるようになっていきます。毎回各教授のもとに集合し、質疑応答などを通じた双方向的なやりとりを緊密に行うことにより、議論を通じて互いを理解する能力の向上を目指す講義です。この講義において、私はタンパク質に関連する事柄について担当することになりました。その時、私は即座にラッキーだと思いました。なぜなら、もともとアミロイドというタンパク質について興味を持っていたからです。しかし、アミロイドについての調査は容易なものではありませんでした。英語で書かれた論文をいくつも読み、図書館での文献調査に非常に多くの時間を費やしました。そのおかげで、発表では教授からよく調べられているという講評をいただくことができました。

STEM演習をとおして、物事を徹底的に追究することの大切さを知ることができたと思います。今まで生きてきた中で、一つのテーマについてこれほど調査したことはなかったからです。大変だと感じることもありましたが、関心や好奇心が勝ることが多かったため熱中して取り組むことができました。これは研究にも同様なことが言えると考えられます。向上心を持ち、探究に努めるのは、研究の理想形だといえます。

アルツハイマー病やハンチントン病といった疾患には、アミロイドが形成される特徴があります。アミロイドについて解明されつつあることもありますが、未解明のものは依然として多く、アミロイドによる疾患に苦しんでいる人々を見過ごすことはできません。そのような社会の課題を解決するために、熱意を持った研究者になれるよう勉学に励みたいと思います。

(注) STEM演習とは、徳島大学で実施の理学(サイエンス)のセンスを持った工学者を目指してSTEM(Science, Technology, Engineering, Mathematics:ステム)教育の導入で工学と数学・サイエンスとの関係の講義とともにこのSTEM演習で各理・工学の導入教育です。